

令和４年度 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会 会議の概要

【日 時】 令和４年 11 月 10 日（木）19 時 30 分～21 時 00 分

【場 所】 伊豆市役所別館 ２階 大会議室

【出席者】 25 名

(敬称略)

機関・団体・役職名等	氏名	役職
新中学校開校準備委員会	植松 真由美	会長
伊豆市 商工会長	山田 健次	副会長
伊豆市 区長会 副区長	志村 博	委員
NPO サプライズ 事務局員	高橋 いづみ	委員
伊豆市 主任児童委員	内田 直美	委員
伊豆市 子育てママスタッフ	工藤 絹衣	委員
三島信用金庫 修善寺支店長	酒井 正樹	委員
伊豆市長	菊地 豊	
副市長	佐藤 信太郎	
教育長	梅原 賢治	
総合政策部長	新聞 康之	
総務部長	滝川 正樹	
市民部長	佐藤 達義	
健康福祉部長	栗山 信博	
産業部長	井上 貴宏	
建設部長	大村 俊之	
教育部長	小塚 剛	
危機管理監	加藤 博永	
議会事務局長	稲村 栄一	
企画財政課長	土屋 直也	事務局
企画財政課 主幹	杉本 弓弦	事務局
企画財政課 主査	太田 成一	事務局
企画財政課 主任	三須 博之	事務局
企画財政課 主事	杉本 和穂	事務局
企画財政課 主事	金刺 あかり	事務局

【資 料】

- 次 第
- 参考資料 1-1 伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期総合戦略（概要版）
- 参考資料 1-2 伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期人口ビジョン（概要版）
- 資料 1 令和４年度 伊豆市市民アンケート結果について
- 資料 2 第２期総合戦略における取組と施策評価について
- 資料 3 移住者をさらに呼び込むために

1. 議事

(1) 伊豆市総合計画概要について 【参考資料 1-1・1-2】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等なし

(2) 令和4年 伊豆市民アンケート結果について 【資料1】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等なし

(3) 第2期総合戦略における取組と施策評価について【資料2】 に基づき、事務局から説明

※各委員から特に意見等なし

(4) 移住者をさらに呼び込むために 【資料3】 に基づき、事務局から説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

(会長) 意見はあるか。

(副会長) 移住者は何を求めているのか。自然を求めているのか。また、地元の人たちと関わりたいのか。

(事務局) 移住担当者の体感としては、移住に対する本気度が高い人は地域とのつながりを求めている人が多いと感じる。

(委員) 伊豆市移住情報センターに問い合わせ頂く方は、地方で暮らす事に対して前向きな人が多い印象がある。自然を感じ、伸び伸びと子育てしたいという移住者が多いと感じている。また、移住相談件数はコロナ前の2倍程度増えている。

(副会長) 伊豆市に移住すると給料の面に不安要素があると思うが、移住者の感覚はどうか。

(委員) 都会と比べると平均的な給料が低いかもしれないが、お金よりも、ライフスタイルを重視する、子どもと一緒にいる時間や自然豊かになくらしが大切だと考える人が多いと感じる。

(委員) 伊豆市に働く場所が無いから移住先として考えないという人は少ないように感じる。都内から移住してくる人は、仕事はそのまま続ける人が多い。また、今よりも環境が良いところに住みたいという人が多い印象がある。金銭面でいうと、副業が出来る場所があると更に良いと感じた。

(委員) 伊豆半島南部の市町よりも、伊豆市の出生率が低いのはどんな理由が考えられるか。

(伊豆市長) 伊豆市民の多くは、生活圏が三島市であることから、その辺りへの転出のハードルが高くない。ただし、伊豆半島南部の方々の生活圏は三島市・田方地区ではない事もあり、当市よりも転出する人が少ないのではないかと。なお、伊豆半島南部の市町は、伊豆市よりも出生率が高いが、出生数自体は少ない。伊豆市の人は、結婚すると引っ越してしまう印象がある。

(委員) 伊豆市に住んでいる若い女性は、結婚すると都会に出ていくように感じる。また、結婚後に伊豆市に住んでいる人も、伊豆市で出会ったわけではなく、偶然にも市外で出会って、伊豆市に帰ってきている人が多いと思う。出会いの場は、伊豆市ではない事もある。伊豆市に残っていて、未婚の方は、出会いの場が少ないと思う。

(副会長) 私も、出会いの場をつくった方がよいと思う。

(委員) 近年、伊豆市の子育て施策のアピールが上手になってきていると感じている。

その効果もあり、資料のとおり伊豆市に住む子育て世代が少しずつ増えていると感じている。

今までは、結婚をすると他市町へ引っ越す夫婦が多かったが、伊豆市内に住み続ける夫婦が増えているという声も聞くようになった。伊豆市の施策が徐々に浸透してきて、その成果が出てきたのではないかと感じている。

(副会長) 横瀬にある月見タウン(分譲地)は、余っていた2件の分譲地が埋まった。今までは、結婚を機に市外へ出る人が多かったが、月見タウンの例は、伊豆市出身者が市内で新居を構えた例である。

- (委員) 中伊豆の戸倉野地区にある分譲地も、なかなか売れなかったが、最終的には売れて若い世代が増えていた。物件があれば、人は集まってくる。
- (委員) 三島信用金庫では、三島市と伊豆市のみ住宅の金利優遇措置を行っている。伊豆市は、住宅補助について他機関と連携したアピールをしたらどうか。また、伊豆市は移住を決めた人には補助が手厚いが、その前段階の移住を検討している人へのアプローチが弱いと感じる。移住検討者は、伊豆市をピンポイントで検索する人より、静岡県広域で移住先を検索する人が多い。ゆとりすと静岡を見ると、医療福祉・その他に「○」が付いていない。伊豆市は医療福祉についても十分充実しているし「○」を付けても良いのではないか。やはり、移住を検討している人への訴求力をあげて欲しい。
- (委員) 医療支援や子育て支援については、長泉町が有名だが、伊豆市も実は同じくらい手厚い。移住相談に来た方には、そのように案内しており、前向きに考えてくれる人が多い。子供が生まれた時、自然豊かな場所に住みたいという声も多く、子どもが生まれてから移住してきている方も多いのだと思う。また、若者定住補助金についても、移住者だけでなく既に伊豆市に住んでいる人への補助制度でもあるという周知が進んだと感じる。このように伊豆市から出ていかないうにする定住施策も大切だと思う。
- (委員) 駅前のブランディングに力を入れて欲しい。伊豆市の玄関口としての良さを高めることが、移住者へ訴求するのではないか。今、修善寺駅の構内に掲出されている下山養魚場と天城軍鶏の生産者の顔が見えるポスターがすごく良い。働いている人の生き生きとした笑顔が見えるという伊豆市のブランディングは非常に良い。
- (委員) 私も伊豆市が気に入って移住してきた身である。しかし、住んでいる人に「なんでこんなところに引っ越してきたの?」と言われ、ショックを受けた記憶がある。そのようなネガティブな面は子供たちにも伝わる。伊豆市の良さを前向きに発信することが大切だと思う。
- (委員) わさびやしいたけ等、伊豆市のいいところを積極的に発信することが大切。大人が伊豆市に自信を持つことが大切。一度は、都会の空気を吸って、最後は伊豆市に戻ってくる。それがいい。私には、周りに好きな人たちがいた。だから、伊豆市に戻りたいと思って帰ってきた。そのような子供たちが増えてくると良い。
- (会長) 本会議にて頂いた意見については、公表させていただきますのでご了承願いたい。

2. その他

(事務局)

皆様から本日いただいた貴重なご意見については、とりまとめのうえ公表させていただきます。以上をもちまして、伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【閉 会】